

2004.9.28

アルミ缶リサイクル協会

## アルミ缶リサイクルの現状

### 【1】 アルミ缶リサイクル協会のプロフィール

#### (1) アルミ缶リサイクル協会の目的

本協会は使用済みアルミニウム缶の再生利用により、資源、エネルギーの有効利用を図り、ごみの減量に資するため、会員相互の協調のもとに、空き缶の回収処理について調査、研究、指導及び広告宣伝を行い、一般の啓発に資し、もって国民経済の健全な発達に寄与することを目的とする。(定款 第3条)

#### (2) 設立

1973年(昭和48年)アルミ缶関連業界の発意により「オ・ル・アルミニウム缶回収協会」として設立。

(1989年(平成元年)「アルミ缶リサイクル協会」に改称)

我が国初のアルミ缶入りビールが上市されたのは1971年(昭和46年)であり、アルミ缶が本格的に出回って間もない当時から、回収の取り組みも同時に始めたのが特徴である。

#### (3) 会員(37社)

アルミ缶製造メ - カ -	7社
アルミ圧延メ - カ -	6社
ビール・飲料製造メ - カ -	8社
アルミ再生地金製造メ - カ -	6社
商社	10社

#### (4) アルミ缶リサイクル率目標値(2002年度を初年度とする5ヶ年計画)

「2006年度(平成18年)までに、リサイクル率 85% を達成する」

#### (5) 基本方針(5ヶ年計画)

- (1) 市区町村分別収集拡充への協力支援、学校回収を含む集団回収の普及のための活動を行う。
- (2) 分別収集実施市区町村の回収量アップのための支援活動を推進する。
- (3) 事業系リサイクル推進活動をレベルアップし、重点事業活動とする。
- (4) 法令等社会制度改正の動向調査と当協会が実施できる政策提言等を実施する。

**【2】飲料用アルミ缶リサイクル率(回収・再資源化率)の推移**

年 度		消費量(暦年)		再生利用(回収)量		単 重	リサイクル率 (%)	CAN TO CAN (%)
		缶 数 (百万缶)	重 量 (トン)	缶 数 (百万缶)	重 量 (トン)	1缶当り (グラム)		
1977	S 5 2	1,331	25,269	200	4,336		17.2	
1978	S 5 3	1,750	33,230	400	7,660		23.1	
1979	S 5 4	1,940	38,940	500	10,231		26.3	
1980	S 5 5	1,798	35,945	542	10,836		30.1	
1981	S 5 6	1,584	31,680	556	11,093		35.0	
1982	S 5 7	2,030	40,629	800	15,994		39.4	
1983	S 5 8	2,272	45,442	913	18,266		40.2	
1984	S 5 9	2,684	53,645	1,089	21,789	20.0	40.6	
1985	S 6 0	3,024	60,482	1,227	24,594	"	40.6	
1986	S 6 1	3,500	69,986	1,442	28,848	"	41.2	
1987	S 6 2	5,482	109,644	2,275	45,498	"	41.5	
1988	S 6 3	7,452	149,035	3,170	62,150	"	41.7	
1989	H 1	8,050	147,560	3,430	62,766	18.3	42.5	
1990	H 2	9,145	161,185	3,898	68,612	17.6	42.6	
1991	H 3	10,240	180,256	4,416	77,723	"	43.1	
1992	H 4	11,230	197,824	6,050	106,488	"	53.8	
1993	H 5	11,780	201,086	6,799	116,258	17.1	57.8	
1994	H 6	14,850	247,815	9,069	151,453	16.7	61.1	
1995	H 7	15,920	264,655	10,470	173,802	16.6	65.7	45.6
1996	H 8	16,390	271,298	11,500	190,391	"	70.2	71.2
1997	H 9	16,560	274,660	12,016	199,460	"	72.6	73.3
1998	H 1 0	16,650	271,034	12,390	201,730	16.3	74.4	79.0
1999	H 1 1	16,960	275,751	13,320	216,549	"	78.5	75.8
2000	H 1 2	16,750	265,541	13,500	214,107	15.9	80.6	74.5
2001	H 1 3	17,440	283,402	14,430	234,522	16.3	82.8	67.8
2002	H 1 4	17,780	292,392	14,720	242,908	16.5	83.1	70.3
2003	H 1 5	17,740	297,047	14,560	243,071	16.8	81.8	63.7

・アルミ缶1缶当りの平均重量は開発以来、軽量化されて来たが、近年のボトル型缶の登場により増加傾向にある。

### **【3】アルミ缶リサイクル協会の取り組み**

#### **(1) リサイクル率**

日本のアルミ缶リサイクル率(2003年度 = 81.8%)は世界でもトップクラスの実績である。

欧州及び米国における飲料用アルミ缶リサイクル率  
2001年暦年実績

	リサイクル率(%)
フランス	29
ドイツ	80
スウェーデン	88
イギリス	42
スペイン	20
イタリア	46
ギリシャ	36
ポーランド	39
その他	-
全欧州計	(45)
米国	55

出典: アルミ缶リサイクル協会第2次訪欧調査報告書(2002年)

リサイクル率算出方法(2003年度実績)

$$\text{リサイクル率} = \frac{\text{再生利用重量}(243,071\text{t})}{\text{消費重量}(297,047\text{t})} = 81.8\%$$

$$\text{CAN - TO - CAN率} = \frac{\text{缶材向け重量}(154,906\text{t})}{\text{再生利用重量}(243,071\text{t})} = 63.7\%$$

#### **第三者検証**

当協会が公表するリサイクル率については、1998年度(平成10年)より、その算出方法の信頼性について第三者の立場から客観的評価を行うため、第三者検証を実施しております。

昨年度も前年に引き続き、「株中央青山サステナビリティ認証機構」による検証を受け、「当協会が調査集計した飲料用アルミ缶リサイクル率の算出プロセスは、適切に実施されており有効です」との第三者保証報告書を頂いている。

#### **(2) アルミ缶リサイクル協会の活動**

##### **回収拠点制度**

当協会では、1975年(昭和50年)よりアルミ缶回収活動を活発化するために、回収アルミ缶の受け皿としてアルミ缶回収拠点を充実、整備する必要があるとの考えから、アルミ缶回収拠点の登録制度を実施している。

この活動は、会員会社、二次合金メカ、再生資源回収業者、ボランティア、生協、スーパーの店舗等全国で2,033拠点(平成16年9月現在)の参加を頂いている。

なお、当協会はこれらの回収拠点の活動を支援、助成するために、「アルミ缶リサイクルニュース」の発行(4回/年)等、啓発資料の提供を行い、回収拠点の充実を図っている。

また、「アルミ缶回収協力者・優秀校」の表彰は回収拠点からの推薦を頂いて選考している。

## 表彰制度

### <イ> アルミ缶回収協力者(一般)表彰制度

1976年(昭和51年)から始めた表彰制度であり、アルミ缶回収促進を目的として、アルミ缶回収活動において優秀な活動実績をあげた団体、個人に対して感謝状、副賞を贈呈するもので、今日まで全国の1,064団体、個人に感謝状を贈呈している。

### <ロ> アルミ缶回収優秀校(小・中学校)表彰制度

協会設立20周年を記念して、1993年(平成5年)から始めた制度であり、小・中学生のアルミ缶回収活動の重要性の理解にもなり、また環境教育の一環としてのアルミ缶回収活動の継続にもつながっている。(今日までに579校表彰)

### <ハ> 優秀回収拠点表彰制度

1983年(昭和58年)よりアルミ缶回収に優秀な成績をあげ、アルミ缶回収に貢献度が高く、また当協会活動に理解があり、協力度の大きいアルミ缶回収拠点を表彰する制度である。(今日までに37拠点を表彰)

### <ニ> リデュース・リユース・リサイクル推進功労者表彰制度

リサイクル推進協議会は、3R推進に広く貢献している個人・グループ・事業所などを表彰することによって、再資源化事業の促進と、3R意識の高揚を図る目的で制度化され、当協会も推薦団体の一つとして、毎年アルミ缶リサイクル活動に優れた個人・団体を推薦している。

## 環境教育及び広報活動

当協会では環境教育の一環として、中学生等の春、秋の修学旅行に合わせ年間50校～60校(生徒数約300人)の訪問学習を積極的に受け入れている。又、各市区町村、及び小・中学校が開催するリサイクルイベントに資料提供を行い、リサイクル啓発活動を行っている他、環境展(東京=5月、大阪=9月)への協賛を行っている。

## (3) 再資源化の状況

### 有価の状況

- (イ) 日本アルミニウム協会の通商産業省(現・経済産業省)委託調査による「平成12年度循環型基礎素材産業構築対策調査」(有用金属の総合リサイクル調査)によればアルミ缶には、優れたリサイクルの経済性があり、他の容器に比較してスクラップ価値が高く、自治体にとって収集・処理費用を上回る売却収入があることが判明している。
- (ロ) 平成15年度における分別収集、及び再商品化実施自治体のアルミスクラップ売却収入金額は概略以下と試算される。

$$137,000\text{トン} \times 100\text{円/kg} = 137\text{億円}$$

(アルミ缶再商品化重量は環境省調査:平成15年度容器包装リサイクル法)に基づく市町村の分別収集及び再商品化の実績について)による。

## アルミ缶再生利用の用途

2003年度(平成15年)のCAN - TO - CAN率は63.7%であったが、アルミ缶再生塊の缶以外の用途としては下記があげられる。

2003年度再生利用量 24.3万トン

自動車部品向け鋳物合金 6.2万トン(25.5%)

鉄鋼向け脱酸剤 2.6万トン(10.8%)

(アルミ缶用) 15.5万トン(63.7%)

## 【4】まとめ

- ・アルミ缶のリサイクル率が2000年(平成12年)以来80%の大台をキープしていることは、我が国のリサイクル活動が極めて高いレベルに達していることを証明している。
- ・これは言葉を換えると、「容器包装リサイクル法」が有効に働き、「消費者の分別排出、自治体の分別収集」の浸透が極めて高いレベルに達した結果と判断できる。
- ・但し、当協会の今後の課題としては、事業系(小規模オフィス等)の分別排出状況の実体把握、及び徹底によるリサイクルの更なるレベルアップが必要であると考えている。